

(別紙 競技別)

3 各競技特性に応じた感染防止策の例

< 陸上競技 >

1 感染防止対策を講じる

(1) 3密を回避（密閉・密集・密接）する

- ・ソーシャルディスタンス確保の工夫（部屋のレイアウト変更）
- ・室内換気の確保
- ・集合時間をずらした行動 など

① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策

陸上競技場諸室／屋内練習場／更衣室内の室内換気を徹底する

② 密集場所（多くの人が密集している）の対策

陸上競技場諸室／招集所／雨天時室内練習所／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数に制限する

③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策

陸上競技場諸室／チームベンチ／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数で制限すること。また物品の受け渡しは極力避け、避けられない場合は、手指消毒をする

(2) 競技者に対し実施する

- ###### ① 競技者に対し競技会2週間前からの検温を義務付け、指定の体調記録表（別紙1）に記載し、受付時に学校同行者検温確認表（別紙2）にまとめ、提出させる。

主催者は学校同行者検温確認表（別紙2）を提出していない学校を、出場不可とすることができる

- ###### ② 疑わしい競技者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない

- ###### ③ マスク着用の義務（運動時を除きマスクの着用を義務とする）を競技会大会要項に記載する主催者はマスクをしていない人に対し注意を促す

- ###### ④ 手洗い・手指消毒・洗顔を欠かさないよう注意喚起する

(3) 室内清掃・消毒の準備を整える

(4) 審判員と選手の動線をできる限り分ける

2 対象者毎の配慮事項

(1) 共通事項（主催者は競技会に関わる全ての人に以下の内容を伝える）

- ###### ① 日々の体調管理を怠らず、検温を行い、万一体調不良や平素より高い体温が認められる場合は参加しない

- ###### ② マスク着用、手洗い・洗顔を欠かさない

- ###### ③ 3密回避行動を心掛ける

- ###### ④ 競技会の規模、目的に応じて参加資格に制限をかける

- ・参加資格記録等でレース数、組数の調整をする
- ・参加者数に応じた審判員の委嘱する（年齢も考慮する）

(2) 競技者（要項・プログラム等に記載する）

- ###### ① 競技者の体調記録表（別紙1）をチームの代表者が学校同行者検温確認表（別紙2）に取り

まとめて主催者に報告・提出する

- ② ウォーミングアップは密を避け、個別に行う
 - ③ 競技用具使用前後は手洗いをする
 - ④ 更衣室の滞在は短時間にする
 - ⑤ 運動中につばや痰を吐かない
 - ⑥ 体液の付着したゴミは自己責任でビニール袋に密封し処理(基本的に持ち帰り)する。
- (3) 主催者/競技役員 (以下を伝え、必要に応じ委嘱状・マニュアル等に記載する)
- ① 主催者は文書・メール等を活用し、事前打ち合わせを減らす工夫をする
 - ② 主催者は参加者数に応じた審判員を委嘱する
 - ③ 主催者は新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい65歳以上の競技役員には出来る限り委嘱しないこととする
 - ④ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病, 心不全, 呼吸器疾患, 高血圧, 透析を受けている者, 免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等)を持っている者は委嘱を受けた後速やかに主催者に申し出て競技役員を辞退する
 - ⑤ 主催者・競技役員は競技者との接触を減らす工夫をする
 - ⑥ 競技役員は3密の回避行動を心がけ, マスクの着用, 眼鏡(サングラス可), 手袋(緊急時にすぐ着けられるように携帯する)を用意する
- (4) チーム関係者・応援者(事前通知及び当日会場内でアナウンスし注意喚起をする)
- ① 競技場客席, 競技場共有エリアでは3密を防ぐためチーム関係者など待機スペースとして使用することを許可する
 - ② 声を出しての応援, 集団での応援は行わない
 - ③ 競技者に付き添う場合は, 必ずマスクを着用し, 競技者とソーシャルディスタンスを確保するとともに, 接触および会話に注意する
 - ④ 混雑を回避するため, 競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを禁止する
- ### 3 競技種目毎の配慮事項
- (1) 競技運営・種目共通の配慮事項
- ① 3密を回避できる1日の競技会の参加人数を設定する
参加人数制限やレース間隔は行う競技会の特性によるため, 実施する競技種目により, 運営内容について検討する必要がある一方で, 感染防止策が取れる方法で, 実施する競技種目を決定するという方法もある。どちらを選ぶかは主催者の判断とする。
 - ② スタート待機及び招集時間を分割し密集を防ぐタイムテーブルを設定する
 - ③ 競技開始前(招集～スタート地点での待機)
3密の回避として, 招集時刻を分散化(細分化)し, 招集所は競技者同士の距離はソーシャルディスタンスを確保し, 手続きの簡略化(滞在時間の短縮)を行う
 - ④ 滞在時間の短縮のため選手紹介は簡略化する
 - ⑤ 競技中・フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者のケアについては, 防護体制を整えたスタッフで対応する
 - ⑥ レース後は, 手洗いへ直行する動線を確保し, 手洗い・洗顔を徹底するように促す
 - ⑦ 中長距離レースについては, 他の種目と同様, 上記③～⑥を徹底し, スタート整列時に接触しない人数でレースをすることを基本とする
 - ⑧ 記録発表については, 掲示板の前に人だかりができないように掲示場所の分散化や Web を活用した発表をするなどの工夫をする
 - ⑨ 開会式・閉会式・表彰式は原則, 実施しない。

- (2) トラック種目の配慮事項

- ① 2～3組ずつスタート地点に誘導し、待機場所にゆとりを持たせる（ソーシャルディスタンスの確保）
 - ② フィニッシュ後に長時間止まることを防止する
 - ③ マスクは招集中・移動中・待機中は着用してもらうよう指導する。あわせてマスク着用による熱中症についても注意喚起する
 - ④ 給水の競技役員・補助員は競技開始前に改めてアルコール等で手指を消毒し、マスクや手袋、フェースシールド（またはゴーグル）等を着用する
 - ⑤ 混成競技者控室は原則設けない
- (3) フィールド種目の配慮事項
- ① 待機場所における選手同士のソーシャルディスタンスを確保し、競技役員は注意を促す
 - ② 投てき器具やすべり止めを共用禁止にする必要はない
競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意をすることで対応する
あわせて、競技終了後に手洗い・洗顔を実施させる
跳躍種目における着地マットや砂場も同様である
 - ③ コーチがスタンドから下に向かって話す際は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保して、話すよう注意する
 - ④ 助走練習、投擲練習時に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保するか、あるいは競技役員が1人ずつ順番に呼び出す形式をとる
 - ⑤ 選手同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう注意喚起を促す
 - ⑥ 競技役員・補助役員の手旗、パソコン、計測器などの共用は極力避けるが、共用する場合には、使用前後に手洗い、機器の消毒を行う

4 施設における配慮事項

(1) 施設入場時の配慮事項

- ① 競技役員及び競技者受付所など、対面して受付を行う場所にシールド（透明なシートなど）を設置する
- ② 受付やゲートにて、体調不良が疑われる者に検温を実施する
- ③ 手指消毒剤を提供する
- ④ ソーシャルディスタンス確保の呼びかけを行う（整列に必要なマークの設置）

(2) 施設利用上の配慮事項

- ① 常時換気を実施する（窓開け・戸開けの実施）
- ② 諸室・招集所などの座席配置を工夫する（ソーシャルディスタンスの確保）
- ③ 拡声器・通信機器を利用する
- ④ 直接の接触回避の工夫を行う
- ⑤ 多くの者が接触する可能性がある箇所の清掃（消毒）頻度を増加する（施設所有者・管理者に確認すること）
- ⑥ 雨天時の待避場所の確保・終了後、施設・設備・用器具の清掃・消毒を行う
- ⑦ トイレの清潔化を徹底する（便座の蓋をしてから流すことを徹底する）
- ⑧ 喫煙所を設置しない
- ⑨ ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする
- ⑩ 発熱者が出た場合の、隔離用の部屋を確保する（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションで仕切ったコーナーを用意する）

(3) ウォーミングアップ会場の配慮事項

- ① ソーシャルディスタンス確保の工夫をする
- ② トレーナーステーションは設置しない
- ③ ウォーミングアップ会場への付き添い・観戦を禁止する

5 メディア・取材への配慮事項

(1) 主催者の対応事項

- ① 大会主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。事前申請のない競技会では、大会 HP やプレスリリースを通じて周知する。また、当日の受付でも「しおり」などをもとに確認・徹底する。

(2) 取材人数について

- ① 会場（取材エリア／ミックスゾーン／撮影エリア／プレスルームなど）の規模により人数を設定し制限すること（例）1社1名（取材・撮影兼務）or 取材／撮影 各1名など

(3) 取材方法について

- ① ADカードまたはビブスを用意して報道取材者を管理する
- ② 報道受付では事前に用意した体調管理表の提出を求める
- ③ ミックスゾーンを設置する場合は柵などでソーシャルディスタンスを確保し、3密を防ぐ
- ④ 囲み取材・インタビューは、競技者同意のもとソーシャルディスタンス（競技者と取材者および取材者同士の距離）を確保し実施する

(4) 取材・撮影エリア

- ① 撮影エリアはソーシャルディスタンスで区切る
または、主催者が設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスをカメラマン同士で調整するよう促す

(5) 報道取材者の協力事項

- ① 取材時のマスク着用を義務づける
- ② 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける
- ③ 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する
- ④ クルーを少人数化する

<水泳（競泳・水球）>

競泳

- 県内を60～70名の6グループに分け、開門時間、公式練習時間を30分ずつずらすことにより、入場時、更衣室、公式練習の混雑を避ける。
- 各校とも、スタンド・控え場所はグループごとに区分した範囲で使用し、他者との十分な距離を保ち、他校のエリアに入らないようにする。
- 公式練習は各レーンで泳ぐ人数は8名までとし、ダッシュレーン順番待ちは、2mの間隔をあける。
- 競技に際しての更衣・招集・入場待機・クールダウンへの移動は、場内放送や電光掲示板、競技役員
の指示で行う。
- 長距離種目・リレー種目をなくし、タイム決勝にすることにより、競技時間を大幅に短縮する。それにより、二日間とも通いでの参加を無理なく行えるようにする。さらに競技順序の工夫も行い、競技時間の間隔をあけ、混雑を避ける。
- 招集所の受付テーブルには飛沫よけの透明ビニールカーテンを設置する。
- 記録の掲示は間隔をあけ、数か所に設置する。

水球

- スタンドに各校専用使用場所を割り振り、その場所で他者と十分な距離を保ち、更衣、待機、観戦を

行う。他校のエリアには入らないようにする。

- 公式練習の時間を指定し、プール内の混雑を避ける。
- 試合形式はトーナメント戦で行い、3位決定戦は行わない。
- ハイタッチ等、接触の禁止。ベンチを広く取り、間隔を2m以上取る。

競泳水球共通

- 入水している選手以外はフェイスシールドやマスクを着用する。
- 役員は、選手との動線をできるだけ分け、役割に応じて、フェイスシールドやマスクの着用する。
- 選手用の脱衣かごやいすの消毒をこまめに行う。
- ごみは各自持ち帰りを原則とし、周辺のごみの処理については、素手で扱わないようにする。

<体操・新体操>

体操・新体操競技においては、鉄棒、フロアを利用者が使用した後に都度消毒することはその活動において非効率であり、安全な利用に支障をきたす可能性が出てくると考える。そのため、体操活動においては、利用者から感染者や感染の疑いのある者を可能な限り排除することに主眼を置き、利用する前の利用者の消毒を徹底することを感染拡大防止対策の柱とする。

- 利用者自身の事前消毒を原則とする。
- 練習会場や競技会場が密にならないように、種目の人数や時間を区切り、ローテーションする。また、出入口や窓を開放することで会場内の空気の滞留を避ける。
- 更衣場所を分散し、時間を区切りローテーションするなど、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 同時に多くの利用者が入場しないように、競技者が待機するスペースを広く確保し、競技時間や進行方法を調整することで互いの身体的距離を確保できるようにする。
- 選手同士での会話は同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 競技者、競技時間、競技種目内容など、競技時に必ず記録しておき、必要に応じて提出できるようにしておく。
- 施設、器具等を、セッティング時に消毒する。
- 会場内への持ち込み品(プロテクター等)は最小限にとどめ、その衛生管理を徹底する。
- 審判を最小限にし、審判・補助役員の席が密にならないように配置する。
- 種目ローテーションの挨拶は、競技前のみとする。
- 使用済みマスクやテーピング等も含め、ごみはすべて持ち帰る。

<ボート>

- 移動中の車内や屋内にいる場合は必ずマスクを着用する。
- 役員に関してはマスクを着用し、配置の際は互いの距離を置くこと。
- ボートホルダーはマスクを着用すること。
- 共用する施設、器具及び床等を、使用する人が代わる度に消毒する。
- 艇庫、リギング場、本部、スタート地点において、手洗い場と消毒液を設置し、手洗い消毒を

こまめにする。

- 監視の際は、監視員との選手の距離をあける。
- レースの際、レーンの間隔をあけるようにスタートリストを作成する。
- ごみは各自持ち帰りを原則とし、また、周辺のごみの処理については、素手で扱わないようにする。

<ヨット>

- 陸上での活動中は、マスクを着用すること。
- 施設（ヨットハーバー）の屋内には立ち入らない。
- 更衣およびトイレの利用については、定員を3名とする。利用前後は、手を中心に消毒を行う。
- 陸上での待機中については、3密を避け一定の距離以上を保つ。（おおむね2メートルを確保）
- ペアでの話は向かい合わず同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 競技終了後は、各艇いつも以上に水洗いを徹底して行う。
- マイボトルを用意し、飲料等の飲みまわしは行わない。
- 着艇後は、片づけを行い予定終了後はすみやかに帰宅する。

<ハンドボール>

- 更衣場所と競技会場の動線をスムーズにし、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 他のチームの観戦は禁止とする。試合終了後は、すみやかに会場から退場すること。
試合が終了したチームが完全に退場した後、次のチームの入場となるので、係員の指示に従うこと。
- ベンチにいる選手は、1m間隔で座る。テープなどを貼り、身体的距離を確保する。
- 応援の時、声を出さない。ハイタッチなども禁止。
- ミーティングの隊形を考え、必要以上の会話は避ける。円陣を組まない。ペアでの話は同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 役員・選手はマスクを着用すること。（プレー中ははずしてもよい。）
- 共用するベンチや椅子、モップ等を、使用する人が代わる度に消毒する。
- トイレなど共用部分は清潔に使用すること。密になって使用しない。
- スクイズボトルの共用での使用は禁止とする。（各自で準備すること。）
- ユニフォームの確認とトスは、記録席前で第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は前の試合の前半終了後に行う。ハーフタイムアップは行わない。コート練習は、第1試合のチームは試合前、第2試合以降のチームは、自分の試合が始まる前に5分程度行うこととする。

<バレーボール>

- 各会場の開始式は行わず、試合設定時間に合わせて各校(チーム)は会場に入る。（試合設定時間は、試合間でベンチの消毒・拭き取りが十分行えるよう時間の余裕をもって設定する。）

- 試合用コート 1 日 1 面当たり， 3 チームを超えない範囲で試合を設定する。観客席の空間が広い体育館を使用する。
- 無観客の観覧席を各校(チーム)の更衣・待機場所とし，テープ等で距離を取って場所指定をする。
- トイレは人数制限を設け，入口に待機場所の印をつける。
- 観覧席と体育館フロアの動線を明示する。
- 観覧席出入口，体育館フロア出入口は開放した状態で競技する。
- 試合開始前，終了時には，選手，スタッフ，審判，補助員は手指のアルコール消毒を徹底する。
- 試合は，スリーボール又はフォーボールとし，ラリーごとに消毒・拭き取りしたボールを使用する。
- ラインズマンフラッグは使用しない。(ハンドシグナル)
- セット間のコートチェンジ，試合終了時には，ベンチの消毒・拭き取りを行う。
- ベンチスタッフ，控え選手，補助員は，マスクを着用した状態で試合に臨む。
- アップゾーンの制限ラインを設けず，控え選手の間隔を空けやすいようにする。
- 試合開始前，終了時の挨拶は，握手をせず，一礼とする。
- 試合開始前，タイムアウト時，セット間の円陣は間隔をとり，大声での発声を控える。
- プレー中のハイタッチや，ネット際などで相手に向いた状態での発声は控える。
- タオル，水ボトル，アイシングバッグなどの共用を禁止する。

＜ソフトテニス＞

- ① 生徒，引率者等及び大会関係者は会場に入る際、必ずマスクを着用すること。
試合中には十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが，試合の前後ではマスクを着用すること。
- ② 開会式・表彰式を実施しない。
- ③ 会場を分散させることにより， 1 会場に集まるチーム数を制限する。
受付は，地区単位あるいは学校単位で受付時間を設定し行う。あるいは受付場所が確保できれば受付を分散する。
- ④ 会場内における他人との距離について
ア 試合以外の次の場所において，他人との距離を 2 メートル（最低 1 メートル）確保すること。
受付，会場内の通路や選手待機場所，観客席（前後左右 1 席以上あけて座る）
イ 試合中または試合前の次の場面において，他人との距離を 2 メートル（最低 1 メートル）確保すること。
インプレー以外の場面（ペアで話をする際，試合開始前及び試合後の整列の際，ベンチ入り指導者・監督が指導する際，ベンチ待機の際等）
- ⑤ 試合前のアップおよび試合において，選手が密集・密接する円陣や声出し，整列などは控えること。
- ⑥ コート開放（コートでのアップ）は，少人数になるように順番・時間を設定する。
- ⑦ 試合開始前の挨拶，トスおよび試合後の挨拶はネットから 1 m 以上離れて行うこと。

また試合後の選手間での握手も禁止とすること。

- ⑧ ペアなどとのハイタッチや握手は行わず，至近距離での声掛けも行わないこと。
- ⑨ 用具，用品（ラケット，タオル，ウェアなど）のシェアをしないこと。また，マイボトルを用意し，チーム内でのコップの共有，使い回しを行わないこと
- ⑩ 競技場内で，複数の関係者が触れると考えられる場所や物品（審判台，審判用具，バインダー，ドアノブ，テーブル，椅子など）について，こまめに消毒すること。
- ⑪ 多数の選手が関わる審判員の使用する筆記用具は，審判員各自で用意し，共用を避けること。特に，トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ，水洗トイレのレバー等）についてはこまめに消毒すること。また，手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意し，「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること。
- ⑫ 試合終了の度に，こまめな手洗いを行うこと。
- ⑬ 会場に配備しているゴミ箱などを大会期間中は撤去し，ゴミは各自持ち帰ること。

<テニス>

- 試合開始前の挨拶，トスおよび試合後の挨拶はネットから1m以上離れて行うこと。
また，試合後の選手間での握手も禁止とすること。
- 審判は付けず，セルフジャッジとする。
- 用具，用品（ラケット，タオル，ウェアなど）のシェアをしないこと。また，マイボトルを用意し，チーム内でのコップの共有，使い回しを行わないこと
- 競技場内で，複数の関係者が触れると考えられる場所や物品（審判台，審判用具，バインダー，ドアノブ，テーブル，椅子など）について，こまめに消毒すること。
- 共用する施設，器具等を，適宜消毒する。
- 試合終了の度に，こまめな手洗いを行うこと。
- 大会使用球は試合ごとに交換する。
- 受付や各コートに消毒を設置し，手洗い・うがい・消毒を随時呼びかけていく。
- 学校ごとの待機場所を確保し，試合会場内の動線を指定する。

<ソフトボール>

- 試合前，終了後などに各自，手洗い，うがいをこまめに徹底して行う。（ベンチ内・バックネット裏・トイレ等に消毒用ハンドミストを設置する。）
- 試合開始時の整列及び礼は，球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し，その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする。
- 攻守順の決定の際や打順表確認の際の主将，監督，判員の握手は行わない。その際，可能な限りお互いの距離をあける。

- チームの監督またはその代行者は、必ず試合前に再度チーム全員の体調を確認し、発熱や体調不良等がある構成員はベンチ入りをさせない。
- 試合中のマスクの着用はしなくてもよいが、試合以外の場合は、選手、審判員、記録員はマスクを着用する。（大会本部内は可能な限りお互いの距離をあける。）
- ベンチではなるべく座る間隔を広くとる。また、大きな声を発さない。
- 円陣を組むなどは密集にならないよう配慮し、試合中マウンド上で集合する際は、グラブを口に当てることとする。
- 素手でのハイタッチ・握手を控え、ボールを触った手で目・口・鼻を触らないよう指導する。
- 主催者は、各球場に手指消毒液を確保し、球場入口、1，3塁ベンチに設置し、定期的に補充する。
- 主催者は、各球場に消毒用具を準備し、試合ごとにダグアウト内を使用したチームが清掃、消毒を行う。消毒箇所は、ベンチ、手すりなど不特定多数の者が接触する場所とする。
- 主催者は、全ての球場のダグアウトに工業用扇風機を配備・稼働させる。

<バドミントン>

- 試合中の選手は十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合以外の場面では必ずマスクを着用する。
- 観覧席へ座る際は、前後左右で連続しないように間隔を開けて着席する。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、放送によって諸注意のみを行う。
- 朝の公式練習や試合の順番については全て放送で指示をするので、放送があるまで観覧席で待機をし、フロア出入口で待機をしない。
- 競技フロアへの出入りの度に、出入口で必ず手指の消毒を行う。
- 消毒液は本部で準備するが、各校の参加者もできるだけ消毒液を持参する。
- 1時間おきに出入口、階段、トイレなどを中心に館内の消毒を行う。
- 審判台は使用しない。線審にはイスを用意するが、試合の度に消毒を行う。
- 審判用紙への勝者サインは行わない。
- ダブルスのペアでの話は、対面せずに同じ方向を向いて行う。
- 試合の勝者は手指の消毒後、コートおよびコート周辺のコップ掛けを行う。
- 試合の敗者は手指の消毒後、本部で審判用紙等を受け取り、次の試合の審判を行う。
- 個人の試合に用いる道具（ラケット・シューズ・ウェア等）の貸し借りは禁止とし、本人以外の者が触れることがないようにする。
- インターバル中の選手へのアドバイスは、選手と対面せず、距離をとって行うこと。
- 氷嚢や飲料は、選手が自分で用意しておき、自分で使用する。チームメイトおよび顧問、コーチが届けることや、氷嚢を首に当てる行為は行わない。
- 声を出しての応援は禁止する。他校の使用している席やその付近で応援をしない。
- 試合で敗退し、審判を終えた学校は速やかに会場を出る。

<ウエイトリフティング>

- 施設、器具等をセッティング時に消毒する。
- 審判は各校の顧問で行い、役員人数を最小限にする。
- 選手・役員は会場に入る前、試技終了時にこまめな手洗いや消毒をする。
- 選手・役員はマスクを着用し、密にならないように距離を保つ。ただし選手はアップや試技などの競技中はマスクをはずしてよい。
- 検量時は他の選手と十分に距離を保ち、検量室には1名の選手のみ入室する。
- アップ場では、1つのリングに対して選手1名セコンド2名までの入場に制限する。
- 試合前のアップにおいて、選手の間隔を十分に確保し、向き合わないようにする。
- 試技の際の重量板の取り付け・取り外しには、補助員が手袋をはめたうえで実施する。
- 競技中は発声による応援を控える。
- 選手はアップ前に手の消毒を行う。また試技後は手を水洗した後、手の消毒を行う。
- タオルやアイシングバック等の共用を禁止する。
- 会場の窓やドアを開放し室内の換気を徹底する。
- ゴミは各自持ち帰りを原則とし、周辺のゴミは素手で扱わないようにする。
- 水分補給では、個々でマイボトルを用意し、チーム内でのコップの共有・使い回しをしない。

<自転車（トラック）>

- 会場の入口に消毒液を置き、入場、退場時には必ず手指の消毒をする。
- 個人種目のみの実施とし、競走系種目のスタートは選手同士の間隔を広くとる。
- 更衣場所および控え場所を広く取り、選手の密集状態を防ぐ。
- 次の競技者が待機するスペースを広く確保し、間隔を空けてテープなどを貼り、選手および競技役員についても身体的距離を確保する。
- 共用する施設や器具等を、定期的に消毒する。
- 出場する競技が済んだ選手は、更衣後速やかに帰宅する。
- 施設、設備の定期的な消毒を実施する。
- ウォーミングアップ場でのローラー台の設置距離を十分にとる。

[種目別]

- ① スプリント
バンク内側で機材に乗った出走直前の選手の距離は1車身以上開ける。
- ② 1km タイム・トライアル
決められた順番で順次発走する。次の選手はスタート位置近辺にて間隔を開けて待機する。
- ③ ケイリン
6車立てを基本とし、スタートにおける他選手との間隔を1メートル以上開ける。
- ④ スクラッチ
1番選手のみ発送員による機材の保持を受ける。それ以外の選手はフェンス部分に距離を取って

縦一列に並ぶ。

⑤ ポイント・レース

1番選手のみ発送員による機材の保持を受ける。それ以外の選手はフェンス部分に距離を取って縦一列に並ぶ。

<アーチェリー>

- 入口に消毒液を置き、入場時には必ず手指の消毒をする。
- 競技場は、レーン幅や選手間の間隔を確保し、密にならないような対策を講じる。
- シューティングライン上で1人当たりの間隔を確保（1レーン6mに4名等）できるように、会場の環境や安全を考えて標的配置を決定する。
- 配布物（プログラム・競技者番号・スコアカード等）は事前に個人別に分けて袋に入れて、テーブルに並べ、参加者に自分で取ってもらい、手渡しはしない。
- 用具検査の担当審判員は、マスクとゴム手袋を着用する。
- 検査については、用具の手渡しは行わず、選手に用具を指定場所に置いてもらい、審判員が手に取って検査し、終了後、指定場所に戻す。
- 監督・コーチは指定されるウェイティングラインを指導ポジションとする。
- 競技中のスコアカード・集計端末の管理は選手が行う。スコアカードを挟むバインダーは共有せず、1人1枚ずつ採点相手のものを競技終了まで管理する。
- 審判員が矢の判定で呼ばれたときは、選手を標的から遠ざけて、安全な距離を確保する。
- スコアカードの提出は、審判員への手渡しは行わず、記録席付近に専用の回収ボックスを用意し、選手が確認して提出する。

<少林寺拳法>

- ラウンドごとの出場選手数を抑えるために、男女別に加えて資格別（見習～4級、3級～1級、有段者）で実施する。
- 更衣場所への入室人数を制限し、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 当該種目の出場者以外は、観客席に間隔をあけて座り待機する。
- 競技者の待機スペースや競技者同士の間隔を確保するため、1コートでの実施とする。
- 競技者が待機するスペースを広く確保し、間隔を空けて待機させることで、待機する競技者同の身体的距離を確保する。また、待機場所を競技コートから離れた場所に設置する。
- 「気合」を出すことによって飛沫感染のリスクが高まるのを避けるため、「無気合」もしくは「含気合」で演武を行う。
- 審判員にはマスク着用を義務付け、配置場所を通常よりもコートから離れた位置とする。
- 汗や飛沫等の拭き取りや消毒が容易にできるよう、競技用マットは敷設しない。
- 会場の扉を開放した上で工業用扇風機等を活用し、室内空気の滞留を避ける。

<ホッケー>

- 試合開始前の挨拶は対面せず、握手も禁止とする。
- 用具・用品の共有を避ける。(ボトル・タオル・ウェアなど)
- 更衣室は更衣のみの使用を許可し、使用後は換気を行う。
- 試合に関わる役員数は、必要最低限に抑え、密を避ける。
- 入口に消毒液を置き、入場時には必ず手指の消毒をする。
- 受付や各コートに消毒を設置し、手洗い・うがい・消毒を随時呼びかけていく。
- 試合終了の度に、こまめな手洗いを行わせる。
- 選手送迎バスについては、乗車時にマスクの着用を義務づけ、窓の開放をして換気を十分に行わせる。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、監督への連絡によって諸注意のみを行う。
- ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする。

<ライフル射撃>

- 人と人との接触を避け、身体的距離を確保させる。
【できるだけ2 mを目安に(最低1 m)を確保するように指導を行う。】
- 競技会場内では、全員マスクを着用する。
- 競技会場では、左側通行を原則として適切な距離を保って移動する。
- 換気のため、終日、窓・扉等は開放しておく。
- 共用する器具及び机・椅子等は、使用する人が代わる度に消毒する。
- 競技会場入口・トイレ出入口前に消毒用のアルコールを設置し、手指消毒を徹底する。
- 各学校の待機場所を広く取り、同じ学校の選手同士が密にならないようにする。
- 各学校の更衣場所を分散することにより、密集状態を防ぐ。
- 次の競技者が待機するスペースを広く確保し、間隔を空けてテープなどを貼り、身体的距離を確保する。
- 待機場所に設置する椅子の間隔を2 m離すとともに、射座に向かって同一方向を向くように設置する。(対面座席は禁止)
- 各選手が試合で使用する用具は、1か所にまとめて置かず、間隔を空けて置く。
- 射座と射座の間隔を1射座ずつ間隔を空け、隣り合う選手同士の距離を離す。
- 大会時間短縮のため、ファイナルは実施しない。
- 銃・用具等の共用は原則として行わない。(ただし、用具の不足により、どうしても共用が必要な場合は、必ず消毒を行ったうえで使用すること。)
- 選手はマスクを外して競技を行う。(熱中症対策)
- 応援する生徒等は、マスクを着用することとし、声を出しての応援は行わない。拍手の応援のみとする。
- プリンター・コントロールボックスは、競技役員で操作を行う。

- 射場長は、マスク・手袋を着用し、競技進行はマイクを使用して指示を行う。
- 試合の準備・片付けにおけるサポーターは付けないこととし、射座への用具の搬入・準備・片付けは選手個人で行うこととする。
- 密集を避けるため、記録の掲示は行わず、記録表をプリント配布する。
- 晴天時については、休憩・昼食等は極力、屋外でとることとし、飲食中の会話は自粛する。
(雨天時は、分散した待機場所を別途準備する。)
- ゴミは原則、各自持ち帰りとする。